

おいしい山形

No. **333**

平成29年 / **3** 月号

山形県漁業協同組合
広報誌

漁民と手をつなぐ広報誌



山形県新規漁業就業者総合支援対策事業の就業者支援PR事業として、漁業就業準備研修を終え平成28年4月から定置網漁業に就業した2名の新人漁師が山形県漁協のアンテナショップ「庄内海丸」の店舗で対面販売の実習を行いました。

当日は、庄内浜漁業の紹介TVの撮影もあり緊張の面持ちでしたが、自分たちが獲ってきた自信の漁獲物を一般の方に勧める事に手応えを感じたようです。立ち寄ったお客さんからも温かい応援の声を頂きました。ありがとうございました。



平成28年度地区座談会開催

平成28年12月損益実績を踏まえた年間収支見込みについて、専務理事制の設置について(常務理事制の廃止)、サケ増殖に係る経費負担について、ライフジャケット着用義務の違反者に対する処分につ

いて、山形県漁業協同組合が取扱う貸付金について広く意見を承るため、2月21日から各支所を会場として地区座談会を開催しました。主なご意見・ご要望について掲載します。

鼠ケ関地区

2月21日(火) 午前10時
出席者36名(内女性部8名)

Q ライフジャケットの補助は何年経過すれば再度対象となるのか。

A 購入後2年間の間があれば該当になります。漁協・海難防止協会・漁船保険から最大80%の補助が出ます。

Q 鮮魚を箱詰し、脇に船名等のシールを張って出荷しているが、入札後買った仲買人がそのシールを剥がしているのを目撃した。これはどういうことか。

A 仲買人が購入後のことであり、とやかく言えないが、仲買人独自の方法があると思われ。市場内でそういう作業はしない様に指導していきます。

Q 最近アワビの出荷時に、B品が多く出ている。これはどういうことか。

A 職員が立会のもとに選別して

います。特に夏場のアワビは傷つきやすいです。

Q リース事業について説明願いたい。

A 中古代船がない場合は新造となるが、漁協が所有者となり漁業者にリースするもので、リース期間は最長20年、終了後は漁業者のもの(所有)となります。償還は漁業者が返済し、漁船保険、修理費等も本人負担となります。漁協が漁業者の代わりに借入れ、漁業者にリースします。

Q 常務理事制から専務理事制となるのは、総代会の前に役員改選を行うのか。

A 総代会で専務理事制を承認後に役員改選となり、その後の理事会で選任されます。

Q 役員の75歳定年制は変更になったと聞いたが、どの様になったか。

A 平成26年9月9日の理事会にて、就任時に75歳未満であり、

任期中75歳に達した場合であっても、任期中は在任できることと変更しており、内規で定めています。

Q 繰越欠損金が解消された場合、出資配当も考えているか。

A 足腰の強い経営を目指し、内部留保を増やしていきたい。還元できるように頑張っていく。

※サケ増殖事業に係る経費負担については反対意見はなかった。

温海地区

29年2月21日(火) 午後1時30分
出席者16名(内女性部0名)

Q 山形のコープしろにし店「庄内海丸」は今後は手を広げていくのか。どのような方向にもっていくのか。

A 現在も店舗の他に応援店・料理店にも販売しています。

Q おばこサワラは現在、仲買人を通して山形内陸方面に販売しているが、末端の消費者までいくとなるとどうしても高くなる。漁協が直に売ることができないか。

A 現在はルートを通じて販売している。末端の消費者までとなると雇用人数の制限もあり厳しいが、検討します。

Q 磯見漁業の力キの単価が潜水漁業の力キより異常に安かったが、どういうことか。

A 昨年は、カキの身入りが悪く



船ごとに価格差が大きかった。

仲買人も箱の中を見て船ごとに買っています。入目が良いとか、形がそろっているとかで単価も違ってきます。以前、豊浦でもこの話が出ましたが、最近では潜水漁業が浅瀬のカキがなくなり深い場所から獲っています。その場所に栄養分がないためか身入りが悪く、磯見漁業のカキのほうが値段が良くなっています。

Q 新規漁業研修制度はだれでも申請できるのか。研修終了後、その浜で漁業を行いたいと言ってきたても、各浜の取決め・繋船場所・上架場所等の問題が出てくる。事前に漁協から漁業者会長等に連絡してもらいたい。

A 制度上は条件をクリアすれば可能となります。研修期間中はいろいろな船に乗り、最後に組合員になるか、どんな漁業を行いたいのかで決まるため、なかなか早く相談・連絡できない場合があります。決定次第早急に連絡します。

Q 昨年、米子新港の集荷場の北側に入口をつけてもらい、大変ありがたかった。ただ今年から12隻に増加しており、サワラ漁の時期になればさらに手狭になる。氷の入口付近に一間増築願

えないか。

A 要望として受けとめますが、できるだけ協力してやりくりしてほしい。
※サケ増殖事業に係る経費負担については反対意見はなかった。



由良地区

2月25日(土) 午前10時
出席者29名(内女性部5名)

Q 航路が浅くなった際は、早急に浚渫対応して頂き感謝する。上架場の件は進展がないのか。どのようになっているか聞きたい。

A 国より広域浜プランを作らなければ国の事業にのれないと言われ、プランを作成し、先に水産庁へ説明に行っています。その席では、老朽化したものを直すだけでは事業にのれないと言われており、地域のもを一本化するなど前向きなものでなけ

ればいけません。その際は上架場、レール、ウインチ等全てのものを対象にしなければならず、費用が過大となるため、国からの補助(補助率4/10)を差し引いても漁協の持出しは大きくなります。全漁連が扱っているものもあり、それは安く設置できそうなので見積りを取ることとしていきます。

Q 現在の場所は、民家に近く迷惑をかけている。現在の場所より南側の斜路にできないか。先に秋田のタイヤ式の上架場を視察してきたが、安価にできそうなのでそれでも良いのではないかと。

A 由良管内で設置場所、仕様等は一本化してもらいたい。
Q TPPが合意せず、国のリープ事業の先行きが不透明である。今後も継続するように国会議員・県会議員に強く働きかけてもらいたい。

A 毎年要望書を出している。今後も強く要望していきたい。また、全漁連の会議等でも要望していきたい。
Q ライフジャケットの大きなサイズも作るように要望してもらいたい。
A 会議等で要望していきたい。

Q 山形の「庄内海丸」に由良の女性部の一部の人たちが産直方式で加工品を出している。一生懸命作っているのでは少し恩恵があってもよいのではないかと。旅行に連れて行くとか。

A 加工場長と相談し検討していきたい。

Q これは、ボランティアみたいなものだが、魚食普及と思っただけで山形の人に食べてもらえるようになった。
※サケ増殖事業に係る経費負担については反対意見はなかった。



加茂地区

2月25日(土) 午後1時30分
出席者25名(内女性部0名)

Q ライフジャケットの助成を買い購入したが、桜マークはついていないか。
A 桜マークはついていません。市

場に流れているものの99%は桜マークつきとなっています。



Q 大瀬でメバル一本釣漁業を操業している。例年はえ縄漁業の邪魔にならないように揚縄後又は操業していない場所で操業してきた。昨年一隻しか操業していないのに、「この漁場に入ってきてもらっては困る」と言われた。おかしいのではないか。

A 昨年もトラブルがあったと聞いています。最近では船外機船でも大瀬まで行っている人もいます。夜縄は午前7時までと決めただけであるが、その後もはえ縄を操業しているということになります。大瀬組合に確認し、後で連絡します。

Q 2階は雨漏れ、下の荷受場は戸車が悪いのか容易に開かない。修理できないか。

A 加茂だけでなく他の全ての建物、昭和50年代に建てられて

います。危険な箇所から順に修理しています。下の戸はすぐに直します。雨漏りは業者から見積りを取り、検討したい。

※サケ増殖事業に係る経費負担については反対意見はなかった。

吹浦地区

3月4日(土) 午前10時
出席者17名(内女性部2名)

Q 市場周辺の水道水が、漏れているので修理願いたい。

A すみやかに業者に手配します。

Q 貯氷庫のシャッターが壊れ、板で押さえている。猫等が入ることもあるので閉じてもらいたい。

A すみやかに修理します。

Q 最近、FAXで入札結果が流れてこない。どうなっているか。

A 次の風からFAXします。

※サケ増殖事業に係る経費負担については反対意見はなかった。



酒田地区

3月4日(土) 午後1時30分
出席者16名(内女性部7名)

Q サケ増殖事業に係る経費負担の件だが、多く獲る人と獲らない人が同額の2,000円ではおかしい。2%の受益者負担金としたほうが公平感がある。

A 横網(かれない網)でもサケは獲れる。そういう漁業者から負担金を取らないのもおかしい。

Q 3月7日に北部小型船組合の総会があるので、その席でも少し煮詰めた話をしたほうがよい。

Q 第1船溜りの高上げの件は、だいたい前に漁業者が断った経緯があり、厳しいと思うが船も大きくなり安全性、荷役作業を考えると非常に使い勝手が悪い。今後も要望願いたい。

A 県知事との懇談会でも話をしましたが、担当課では難しいという回答でした。来週、酒田港事業計画説明会でも話したい。

Q 船溜まりの係船杭が折れている。修理できないか。

A 以前に要望され、県空港港課に伝えていますが、回答はまだ来ていません。確認します。

Q 酒田市が中型いか釣船の入港

時、米を積ませる予算を取ったと聞いているが、漁業振興であれば酒田の漁業者にも寄与するように要望してもらいたい。

A 機会をみて要望します。

Q プレジャーボート、ゴムボートが夜明前から点灯せず釣りなどをしている。事故防止の観点からも海上保安部へ連絡願いたい。

A 了解しました。

※サケ増殖事業に係る経費負担については受益者負担が妥当ではないかという意見があったが、定額の経費負担で了承を得た。



*専務理事制の設置について(常務理事制の廃止)は、各地区反対意見はなかった。

理事会情報

平成28年度 第8回 理事会議案
開催日・平成29年2月16日(木)
場所・本所 第一会議室

【協議事項】

- 1 総代選挙について
 - 2 役員候補者選任委員及び推薦会議要領(案)について
 - 3 役員選任日程について
 - 4 専務理事制の設置と常務理事制の廃止について
 - 5 燃油輸送船事業の今後の対応について
 - 6 漁業経営特別支援対策資金受付期間(単独融資)の延長について(案)
 - 7 イオンリテールとの直接取引について
 - 8 由良・台車式上架施設の整備計画について
- 【報告事項】**
- 1 平成29年1月末現在の収支状況について
 - 2 平成28年12月末現在における貸付金の状況について
 - 3 平成28年12月末現在における資金運用状況について
 - 4 平成28年12月末現在における余裕金運用状況について
 - 5 貸出金利率の改定について
 - 6 石油製品の供給価格の改定について
 - 7 平成28年度第3四半期における販売促進活動について
 - 8 コンプライアンス推進委員会の開催について
 - 9 組合員の加入・脱退及び減資について
 - 10 平成28年度第3四半期の「庄内海丸」の収支について
 - 11 その他

高橋正博さん、齋藤吉三さんへ 酒田海上保安部長表彰!

平成28年11月18日11時40分頃、遊佐町三崎公園付近で釣りをしていた男性が大波を受け海中に転落する事故がありました。酒田海上保安部から救助要請を受け、港で作業中だった吹浦救難所副所長の高橋正博さんと救助員の齋藤吉三さんは直ちに現場に急行。寒風の中漂流していた男性は迅速な救助により無事に救助されました。12月15日、この功績に対し酒田海上保安部長より感謝状が贈られました。

平成28年度はいつになく海難事故が多い年で、水難救済会の出動は11件。漁船事故の救助出動が6件、プレジャー船や釣り人の救助出動が5件あり、中には死亡者が出た事故もありました。平成29年度は事故ゼロを目指して、より安全な操業を心掛けましょう。



前列左が高橋正博さん、右が齋藤吉三さん

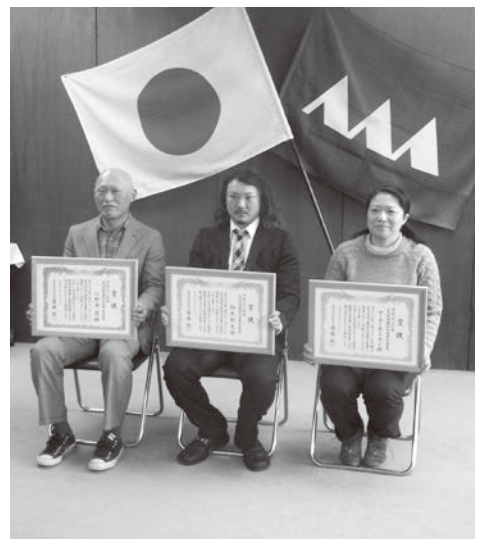
鈴木剛太さん おめでとうございます 庄内地域農林水産業若者賞受賞

3月3日、庄内地域農林水産業若者賞授賞式が庄内総合支庁にて行われました。水産業では温海地区の鈴木剛太さん(剛雄丸、4.9トン、はえ縄漁業)が受賞し、庄内総合支庁長より表彰状が授与されました。

この賞は、庄内地域の農林水産分野で活躍する若者の優れた功績や成果、活動に対して顕彰され、個人では40歳未満で活動期間がおおむね3年以上である個人・団体に授与されます。

鈴木さんは、漁業者団体の役員として積極的に活動にかかわるとともに、地域の魚食普及のために独自に企画を立てるなど、漁業者の中核的存在として地域を牽引する人物であり、今後一層の活躍が期待される将来性のある若者であることが今回の表彰に繋がりました。

この度は若者賞の受賞、大変おめでとうございます。



真ん中が鈴木剛太さん

● 目指せ事故“ゼロ”、安全操業



2月9～11日、たくさんの乗降客などが行き交うJR大宮駅構内で「山形産直市」が開催されました。産直市は主に首都圏などで県産品を紹介するイベントで、農畜産物やお酒、お菓子などと一緒に庄内浜の水産加工品をPRしてきました。

期間中、試食や購入でたくさんのお客さんが足を止める中、「山形県に海があることをはじめて知りました。」という声や「昨日買って食べて美味しかったので、今日もまた買いに来ました。」といった感想も聞かれ、庄内浜の水産物を首都圏に向け、もっともっとアナウンスしていく必要性を感じました。これからも水産加工の振興に、より一層力を入れていきたいと考えています。

庄内総合支庁 水産振興課 水産業普及指導員 **工藤 充弘**

山形産直市

JR大宮駅で庄内浜産水産加工品をPR

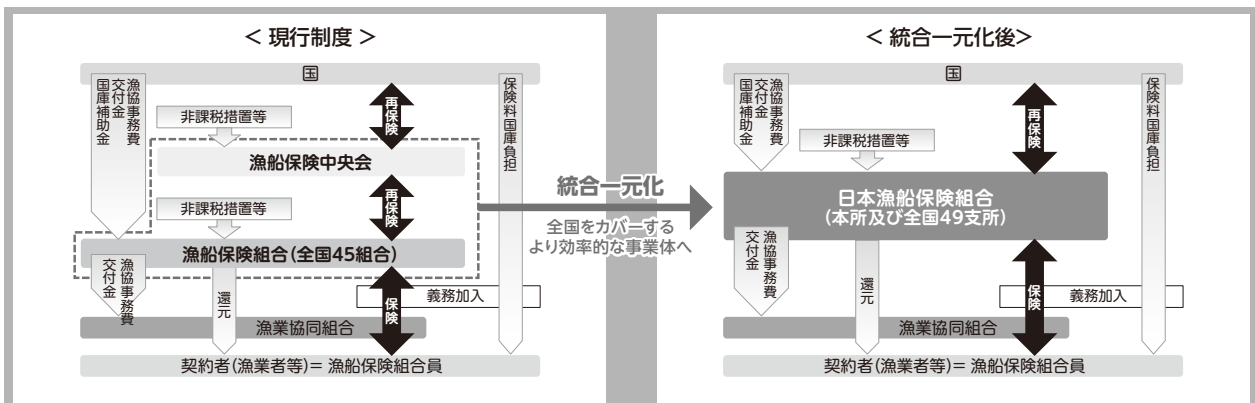


漁船保険が生まれ変わります

平成29年4月、全国45の漁船保険組合と漁船保険中央会を統合した**日本漁船保険組合**が誕生します。

統合一元化にあたっての基本方針

- より効率的な事業者への脱皮
- 漁業者の負担を可能な限り軽減
- 財務基盤を充実・強化し、組合員への還元策（無事戻し等）を拡充
- 義務加入制度、保険料国庫負担、非課税措置等を継続するとともに、現行制度をより強固なものとする



統合後は、「日本漁船保険組合 山形県支所」としてこれまで通りの各種保険サービスを提供いたします。

● 無理せずに、安全操業、家族の安心

水揚情報

平成29年2月28日現在

(単位：千円)

区分	支所別	水揚合計	水揚地内訳							
			吹浦	飛島	酒田	加茂	由良	豊浦	温海	念珠関
1月末迄水揚累計		3,390,411	112,623	97,219	1,992,218	130,862	291,057	194,764	65,483	506,185
月間水揚	県内船水揚	99,115	6,650	6,204	21,312	1,191	14,264	10,487	590	38,417
	県外船水揚	8,412	0	0	8,412	0	0	0	0	0
	合計	107,527	6,650	6,204	29,724	1,191	14,264	10,487	590	38,417
前年同月水揚		164,238	10,793	10,635	44,703	2,048	24,316	12,850	1,835	57,058
本年度水揚	県内船水揚	2,470,968	119,273	103,423	1,002,019	132,053	303,536	205,251	66,073	539,340
	県外船水揚	1,026,970	0	0	1,019,923	0	1,785	0	0	5,262
	合計	3,497,938	119,273	103,423	2,021,942	132,053	305,321	205,251	66,073	544,602
前年度水揚累計		2,868,368	127,118	126,251	1,179,183	150,277	380,213	249,776	76,179	579,371
増減		629,570	-7,845	-22,828	842,759	-18,224	-74,892	-44,525	-10,106	-34,769
本年度水揚計画		2,540,000	120,000	115,000	993,000	132,000	318,000	198,000	74,000	590,000
達成率		137.7%	99.3%	89.9%	203.6%	100.0%	96.0%	103.6%	89.2%	92.3%

今あがっている魚 - 2月のベストテン - 前年対比 増↗減↘変らず→

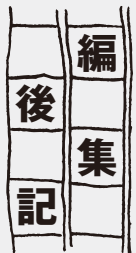
水揚金額(千円)				漁獲量(kg)					
1	たら	30,841		↘	1	たら	70,193		↘
2	はたはた	12,290		↘	2	はたはた	62,689		↘
3	するめいか	9,668		↘	3	さめ類	21,149		↗
4	たあい	7,951		↗	4	するめいか	11,883		↘
5	ずわいがに	7,512		↘	5	たあい	7,420		↗
6	やりいか	5,481		↗	6	やりいか	7,375		↗
7	ほっこくあかえび	4,108		↘	7	あんこう	3,990		↗
8	あわび	3,466		↘	8	たこ類	3,751		↘
9	ひらめ	3,329		↘	9	ほっこくあかえび	3,541		↘
10	たこ類	2,566		↘	10	ずわいがに	2,323		↘

◎ 昨年の12月から今年2月にかけて時化が多すぎませんか？地球温暖化による異常気象と一言で片づけるのは簡単です。タラ・スケソウ・ホッケといった寒流系の魚が激減し、逆に九州や瀬戸内海で獲れていたサワラは激増しています。漁協に入って30年になりますが、かつては大量に水揚げされたスケソウ・ホッケのバラ積みへバっていったことや、タラの積込みに夜中まで作業していた頃が思い出されます。近年、海が少しずつ変わってきていることに不安なのは皆さんも同じだと思います。

◎ 地球は11年周期で変動する太陽の活動に合わせて気温変化しているとのことですが、自然現象(エルニーニョ)と温室効果ガスなど人間が作り出した原因とが重なり合い、そのスピードは更に加速しているようにも感じています。

◎ かつて秋田県はハタハタを資源回復させたことがあります。それは、3年間の全面禁漁という方法でした。生息場所の環境が変わってしまうスケソウ・ホッケはその方法に当てはまるものではないでしょうが、海のことだからそれに代わるものが来てくれないかと祈っています。

◎ 今回の後記を書いているのは2月の末、皆様の手元に届くまで1ヶ月ほど時間があります。編集委員は常に時期に合わせた記事を考えておりますが、事情をおくみ頂ければ幸いです。



念珠関総括支所長 佐藤 修

● おとうさん、無理な操業、事故のもと

水産庁
講演会

「漁協の仕組み、役割」を 漁業士会総会にて開催



2月10日(金)、旅館仁三郎にて山形県漁業士会平成28年度通常総会を行った後、水産庁水産経営課より中田指導室長と加悦課長補佐を講師としてお招きし、講演会を行いました。

講演内容は、浜の中心的役割を担う漁業士としての知識を深めるもので、「漁協の仕組み、役割等」と、漁業者の期待度の高い「漁船リース事業、機器導入事業」の2本です。

漁協の仕組みについては、事業の推移、収益構造、農協との事業比較など、漁協経営の現状と広域浜プランの取組みを交えた内容で、漁協の役割については、改めて漁業者をサポートすることが求められました。

漁船リース事業については、生産性向上による所得の向上を目指す事業ですが、アメリカ、イギリスの漁船の高性能化や、台湾漁船の大型化など、海外と比較した場合、日本漁船の老朽化が目立つため、その対策でもあることが説明されました。

また、アメリカはトランプ氏が大統領に就任した1月20日をもって、TPPの離脱を正式決定したものの、日米首脳会談後には、「日米の経済発展での結びつきを深めていく」としており、今後も貿易の自由化は進むとみえています。

今後の日米の動向から漁業経営に至るまで幅広い講演テーマに意見交換も活発となり、満足度の高い講演会となりました。



新会長紹介コーナー

山形県浅海漁業連合会長



粕谷 雅昭

このたび山形県浅海漁業連合会の会長に就任いたしました、粕谷雅昭(かすや まさあき)です。温海出張所に所属し、所有船「長宝丸」にて磯見漁業を営むかたわら、家業の旅館業も営んでおります。若輩ではありますが、連合会会員ならびに関係各位よりご指導・ご協力いただきながら職務に取り組んでいきたいと考えておりますので、皆様どうぞよろしくお願いいたします。

山形県機船底曳網漁業協議会長



飛塚 裕実

このたび山形県機船底曳網漁業協議会長に就任した、飛塚裕実(とびつか ひろみ)です。

鼠ヶ関港(念珠関総括支所)で所有船「萬龍丸」で小型底曳網漁業を営んでおります。

本協議会は、鮮度の高い地元水産物を県民・市民の皆様へ届けるとともに、海底環境の維持・保全、資源管理、TAC(漁獲可能量)などを実施する団体です。

庄内浜の活力と魅力のある水産業を目指し、関係各位の御協力を頂きながら運営して参りたいと思います。よろしくお願いいたします。

広報誌

すいさん山形

333/平成29年3月号

編集・発行/山形県漁業協同組合 酒田市船場町二丁目2番1号
代表理事組合長 五十嵐 安哉

☎ 0234-24-5611 FAX 0234-22-6455
http://www.kengyokyo.or.jp/